



No.017 教育が変わる(2) プログラミング教育が目指す方向とは？



文部科学省は2020年度から小学校でのプログラミング教育を必修化します。民間では例えば福岡のTECH PARK や Kids Code Club、クリエイティブ教育ラボ のような取り組みが行われていて、子供たちは実にのびのびと楽しみながら学んでいるようです。

一方国は、プログラミングの技能習得は目的ではないとし、あくまでプログラミング的思考を通じて国語、算数等、学習指導要領に示された学習目標に資するものでなければならない、と強調しています。そしてプログラミングそのものを習得する授業は不適切と例示しています。（<https://miraino-manabi.jp/content/222>）

私は、これちょっと違うのではないかと思います。

プログラミングはツールに過ぎないからこそ、目的は子供たちが自分で探せばいい。アプリを作りたいとか、PCで絵を描きたいという動機でプログラミングを学びたいと思えば、それでいいじゃないですか。このスキルを持つことによって子供たちの可能性は大きく広がります。

小学校教育は全員が一律基礎的なことを学ぶ、担任の先生が教える、といった前提のもと、学習指導要領に従わなければなりません。しかし児童一人一人動機もレベルも違っていい。突出してゲームの好きな子は、難しいコンピュータ言語を学び、自分でゲームを作って世界にデビューしてもいいじゃないですか。ITのおかげでカスタマイズが極めて容易になったのだから、適性や能力に応じた公教育は可能です。教員の問題も専門のプログラマーを派遣するなど工夫できます。

従来の枠組みを変えないままでは、世界の変化やIT人材の不足に対応できないだけでなく、子供たちのためにすらならないと思います。